

「見る」「聞く」力を育もう



言葉かけの精選に留意し、ゆっくり間をとり、楽しさ、うれしさを共有することを大切にしてきました。また、視覚支援を重点的に取り組んできたことで、見る力がついてきました。物や人への関心が高まり、それを目で追える力、人とのやりとりを楽しむ力が少しずつ育ってきました。



光と音に気持ちをむけて

キャラクターの“ねこさん”との1対1のやりとりを楽しんだり、みんなで挑戦して、スイッチでスクリーンに大きな打ち上げ花火をあげたりしました。



スイッチの感触や音に興味が出てくると、その後の「ドーン」という打ち上げの音ともつながって、集中して画面をみることができました。

自然をたっぷり感じよう



病棟での生活がほとんどの生徒に、四季の移りかわり、自然を感じる機会を大切にしています。聴覚、視覚、臭覚、触覚など感覚を使って季節を味わったり、それぞれが見つけたものをお互いに教え合いました。



『みる・きく・はなす』の取組から『あそびの指導より』

「お助けマン」支援機器



「ボウリングゲームを楽しむ」の授業では、ボウリング場で見かける障害者用の補助具をヒントに、ボールを転がすミニ装置を作りました。スイッチを入れることでボールを転がすことができるようになりました。交流の取組では、通学高等部の生徒と手抜きなしの真剣勝負！ハラハラドキドキの白熱したゲームが楽しめました。



電源リレーやタイムタイマーを使い、AC電源の家電製品を動かしました。

大玉サッカーでは、大きな蛙の口にシュートが決まると、回転ライトが点灯したり、吹き込んだ声が再生されたりして、みんなで

楽しむことができました。

また、ラミネーターも動かすことができ、授業で作った作品を、子ども達が自分で仕上げることができました。



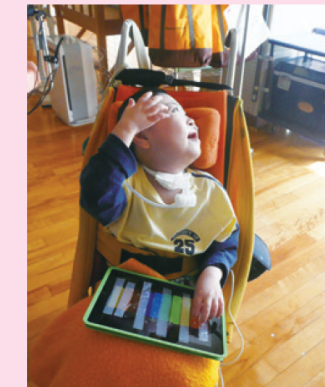
重症心身障害児のコミュニケーションに着目した支援

重心教育部

目指す児童生徒像

- (1) 毎日を快く、力いっぱい生きる児童生徒
- (2) 様々な働きかけを受け止め、生き生きと活動する児童生徒
- (3) 自分の気持ちを表現する児童生徒
- (4) 仲間とともに育つ児童生徒

iPad を使ってみよう



iPadは平らな固い板？ 重心教育部の生徒はそう感じているかもしれません。ツルツルのガラス面にザラザラしたテープを貼ってみると、その引っかかる感触をきっかけに、楽器アプリの鍵盤を意識できるようになりました。

カメラ機能を使い、学校の様子やメッセージを映像で病棟内の生徒に伝えます。「がっこうでまっています。」友達からのビデオレターに笑顔で応えることも……。コミュニケーションツールとしても活用しています。



入力補助具を使うことで、直接タップするのが難しくても大丈夫。スイッチに触れるだけでも、楽器アプリを鳴らしました。リアルな音源で、打楽器、鍵盤楽器、管楽器などの演奏をいっぱい楽しんでいます。



『支援機器の活用』より